

## タラロマイセス・フラバス水和剤(商品名:タフブロック)による 水稲種子伝染性病害の防除

古川農業試験場

### 1 取り上げた理由

宮城県における主要な水稲種子伝染性病害であるいもち病，苗立枯細菌病，ばか苗病対策として，新たに開発された微生物農薬であるタラロマイセス・フラバス水和剤（以下商品名：タフブロック）の効果について検討したところ，高い防除効果が認められ，3病害の同時防除が可能となるので普及情報とする。

### 2 普及情報

1) タフブロックはいもち病に対してトリコデルマ・アトロビリデ水和剤（以下商品名：エコホープDJ）と同等の防除効果が認められる（図1）。また，苗立枯細菌病及びばか苗病に対して，化学合成農薬と比較すると効果が同等かやや劣るが実用性のある防除効果が認められる（図1，2，3）。

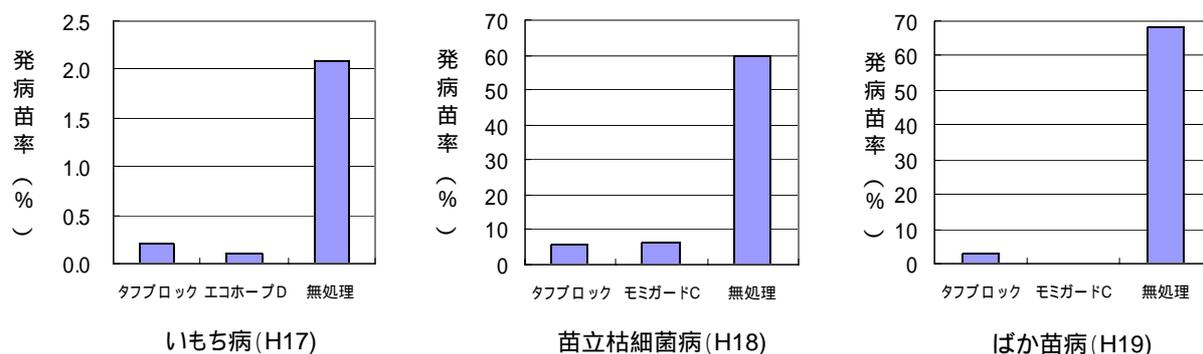


図1 タフブロックの種子伝染性病害に対する防除効果(古川農試)

### 3 利活用の留意点

- 1) 無加温出芽の場合，タフブロック，エコホープDJ及び温湯浸漬法は出芽時の低温により，ばか苗病に対する防除効果が劣る事例があるため，出芽時には加温または被覆資材などにより，低温にならないよう注意する（図4）。
- 2) ベノミル剤，DMI剤，TPN剤及びオリサストロピン剤を含む薬剤との混用，又は播種時処理との体系使用は防除効果が劣るので避ける。
- 3) 発芽勢が劣る種子を使用すると，苗立数減少の原因となる場合があるので注意する。
- 4) 催芽処理液は薬剤投入後，よく攪拌する。処理後，種朶を取り出すときは処理液を攪拌せず，ゆっくり取り出す。
- 5) 薬剤はなるべく低温（25℃以下）で乾燥した場所に保存し，製造日より1年6ヶ月以内に使用する。開封後は密封して保管し，できるだけ早く使い切る。

（問い合わせ先：古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108）

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

新農薬による病害虫防除試験（平成17～19年度）

##### 3) 参考データ

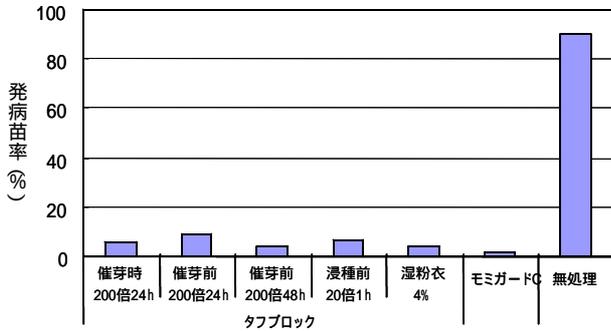


図2 タフブロックの各処理方法におけるばか苗病に対する防除効果 (平成18年)

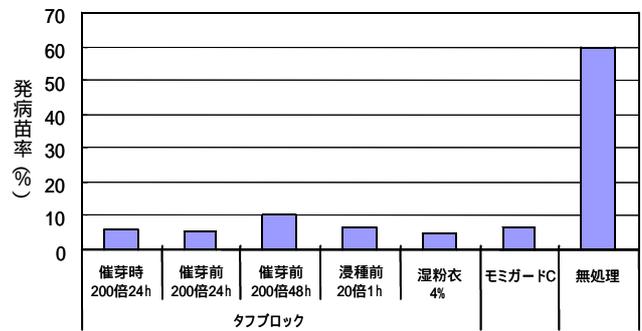


図3 タフブロックの各処理方法における苗立枯細菌病に対する防除効果 (平成18年)

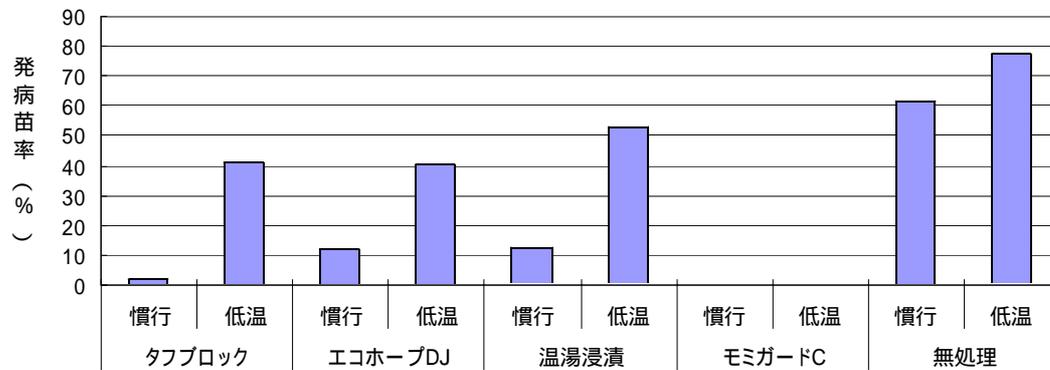
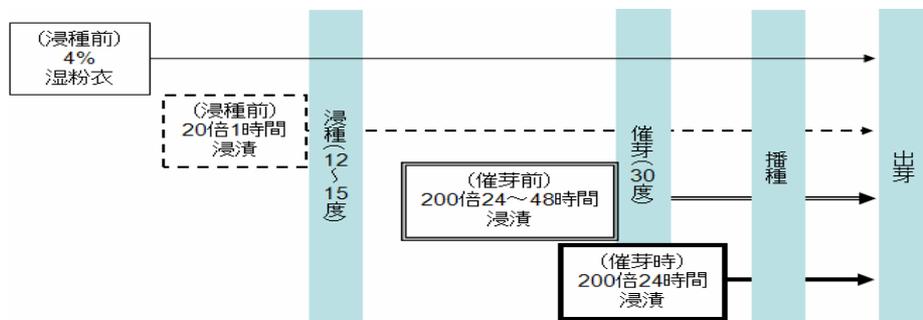


図4 タフブロック, エコホープDJ, 温湯浸漬法の低温条件下でのばか苗病に対する防除効果 (平成19年)  
注) 低温: 出芽期間中に夜間(17時～9時)は5～10℃, 昼間(9時～17時)は20～25℃の温度条件とした

表1 タフブロックの使用方法 (2008年2月12日現在)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用時期	使用方法	使用回数
水稲	ばか苗病 いもち病	200倍	催芽時	24時間浸漬	-
			催芽前	24～48時間浸漬	
	苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	20倍	浸種前	1時間浸漬	
			種子重量の4%	浸種前	



##### 3) 発表論文等

なし